

より良い親子関係講座

NO 76

～～仲間で励まし合って～～

APジャパンの創始者であるジューン・シートさんから講座を受講したのは1986年、そしてAPジャパンの代表となって20年近くになりますが、私はいまだにAPを学び続けています。講座を受講して以来、ずっとフォローアップを続けているようなものです。とくにリーダーになって講座を開くようになったことで、APが少しずつ身に染みていき、ある日、心にストーンと落ちてきた気がします。しかし、まだまだ「APの人」になるにはほど遠い……。時間がかかります。たぶん、私のフォローアップはAPを身につけるために生涯続くでしょう。

受講生の中には、学んだことをすぐに行動に移せる人と、行動するまでに多少時間がかかる人がいます。アタマではわかっている、長い間習慣になっていることを変えていくのは難しいものです。しかし、著者であるマイケル・ポプキン博士は「この講座で学ぶ方法は実際に行動に移す必要があります」と言っているように、行動に移さなければ何も変わりません。とにかく自分ができるところから一つ一つ行動に移していくほかに方法はないのです。APで学んだやり方を行動に移せば、かならず手応えを感じます。その手応えを忘れないで次のステップへ……。そのためにはあたたかいサポート（勇気づけ）が必要です。私は、リーダーの役目は、受講生の一人ひとりが家族や人間関係の中でAPをうまく実践し、手応えを分かち合い、APの素晴らしさを確認し、APで学んだやり方を続けていくことができるように継続してサポートしていく事だと思っています。APを学んだ仲間が家族のように支え合い、お互いに励まし合って成長していく。そのような場がいろんな所にできるといいなと思います。

ホームページで紹介していますように、APジャパンは受講生のためのフォローアップ講座を毎月4回ほど開いています。このフォローアップ講座は受講生を中心に、APに関心がある方など誰でも参加できる場です。フォローアップ講座では、ふだんの親子のやり取りを分かち合い、相談事もあり、家庭での嬉しかったこと、気になっていること、心配なことなどをお互いに話し、それに対してAPの考え方ややり方を示し、AP的に解決できるようにフォローしています。驚くことに、このフォローアップ講座に10年以上も参加している受講生も数名います。

またリーダー資格取得後のフォローアップについては、毎月第一月曜日に「リーダー学習会」を開催しています。10月からはリーダーのトレーニングコースである「ワンコイン講座」も始めましたので、ぜひこの場も活用してほしいと思っています。これは主に「講座をするのがはじめて！」というリーダーが行う講座なので、受講料は超お得なワンコイン！

APを学び、そのやり方を習得し、実践していくことはたやすいことではありません。だからこそ、フォローアップが必要だし、安心できる励まし合う仲間が必要なのです。お互いに励まし合って、同じ仲間として尊敬と思いやりを持って学びあっていきましょう。



♡ ハローフレンズ ☒ ♡

Hello Friends

A Friendless Man: Sad!

Happy Autumn! It's good to have the beauty of autumn to take our minds at least momentarily off the ugliness and silliness we hear every day from the Donald J. Trump administration.

A recent uproar was whether or not Sec. of State Tillerson had called DJT a Moron. Then the spat between Trump and one of his own party, Senator Corker who said the White House has been turned into an "adult day care center."

The Summer Link articles spoke about the importance of self-esteem, and the problems of anger and lack of self-control. The 45th President DJT seems to have both problems.

I began to wonder about his parents. I learned his mother was Mary Anne MacLeod (1912-2000), the youngest child of ten born to a poor fisherman and his wife on an outer island of Scotland. At age 18 Mary migrated to N.Y. and worked as a domestic for about four years.

In 1936 she married Fred Trump, whom she had met earlier at a NY dance. Fred himself was the son of German immigrant parents.

DJT was their fourth child, born in June, 1946. Apparently he spent the major part of his growing up years under the influence of his father, who taught him the rough and tumble business of building and development.

Growing up in the home of busy parents with English as their second language, who were struggling to get rich and succeed among N.Y. society of the day, may be one reason DJT somehow missed learning basic qualities like empathy for others, taking responsibility for telling the truth and admitting his own mistakes.

Recently I read that DJT basically did not have any friends throughout his childhood and school years. DJT says his only real friends are his family members. On last night's news he was quoted as telling a staff member, "I hate everyone in the White House."

It's sad for DJT to be such a miserable man, but it is even more worrisome for the rest of us to be living in the world with such a dangerous man in charge of the U.S. government.

All parent educators can look at DJT as an example for renewing efforts to help parents bring up responsible, moral, children.

June Seat, APJapan Founder and Friend

悲しいかな！友人のいない男は

嬉しい秋です！少なくともドナルド・トランプ政権の、毎日耳に入る醜聞や馬鹿げたことからしばし離れて、秋の美しさに心奪われるのは嬉しいことです。

最近の激しい怒りの声は、ティラーソン国務長官がトランプのことを「まぬけ」と呼んだかどうか、ということです。それからトランプとホワイトハウスは「成人デイケアセンター」になってしまったと言った、大統領と同じ政党のコーカー上院議員の間での口喧嘩です。

夏号のリンクの記事はセルフエスティームの重要性や怒りと自己コントロールの欠如の問題について話しました。第45代大統領ドナルド・トランプはその両方の問題を抱えているようです。

私は、彼の両親はどんな人たちだったのだろうと不思議に思い始め調べました。そして、彼の母親メリー・アン・マクロード(1912-2000)はスコットランドの離島で、貧しい漁師と妻の間に生まれた10人きょうだいの末っ子だったことがわかりました。メリーは18歳の時にニューヨークに移住し、約4年間奉公人として働きました。

1936年、彼女はニューヨークのダンスパーティーで会ったことがあったフレッド・トランプ氏と結婚しました。フレッド自身はドイツからの移民を両親を持つ息子でした。

ドナルド・トランプは彼らの4番目の子どもで1946年6月に生まれました。どうやら彼は成長の時期のほとんどを父親の影響下で過ごしたようです。父親は彼に、ビルと土地開発の激しく競り合うビジネスを教えたのです。

英語を第二言語として持ち、当時のニューヨーク社会の中で金持ちになり成功しようと奮闘する忙しい両親の家庭で育ったことが、ひょっとしたら、彼が他者への思いやりや本当のことを伝え自分の過ちを認めることに対する責任感を持つなどの、人として基本的資質を身につけそなった理由かもしれません。

最近私はドナルド・トランプは基本的に幼児期にも学童期にも友人が一人もいなかったという記事を読みました。トランプは、真の友人は家族だけだと言っています。昨晚のニュースで、彼が「ホワイトハウスの人間は皆嫌いだ」と、スタッフに話していると伝えていました。

ドナルド・トランプがあまりに惨めな人であるのは悲しいことです。でも私たちがそのような危険な人物がアメリカ合衆国政府を司っている世界で生きていることが、もっと気がかりです。

全ての親教育者たちは、ドナルド・トランプを見ると、親たちが責任感と倫理感のある子どもたちを育てるのを支援する努力を新たにしようと思わされるのです。

APジャパン創設者、友人 ジューン・シート

訳：野口 紀子



初めてのリーダー養成講座をして思うこと

糸島市トレーナー 魚永 久子

2011年にトレーナー認定を受けて6年がたった今年、念願のリーダー養成講座を開くことができました。トレーナーになり目標としていた養成講座を、今年度は二度も開講することができて本当にうれしく思っています。

初めての養成講座は、ママ友でもある先輩トレーナーさんと二人で担当できたうえに、一緒にNPO活動をしている先輩方にも相談にのってもらえたので、とても心強かったし安心して臨めました。

AP講座は奥が深く、どれだけ学んでもまだまだ足りない！と思っていたので、この機会のおかげで更に内容を深めることが出来、ありがたく思いました。また、トレーナーとしての自分というものを改めて考え、自分と向き合う良い機会にもなりました。

講座をしながら『“AP講座”って、受講生の皆さんと一緒に、毎回毎回作りあげていってるのだな』と、よく思っていたのですが、養成講座を経験して、その思いはもっと強くなり、一緒に講座を作りあげている受講生の方々に感謝の気持ちが強まりました。

今回養成講座を受けた方々は、AP講座から一緒にメンバーだったこともあり、お互いに気心が知れていて初回から和やかで楽しい雰囲気でした。とても熱心な方々で、質問や意見がよく飛び交ったおかげで、講座の中身をより深めていくことが出来ました。また、回を重ねるごとに受講生同士の一体感が増し、絆が深まっていくように感じました。テキストにあるように、まさに『帰属・学習・貢献』のスパイラルの中で自尊心が高まっていくように、切磋琢磨しながら成長していく受講生の方々は、キラキラとまぶしくて羨ましいほど輝いて見えました。その姿を見ながら、私自身も「初心に戻り、もっともっと成長し続けたい」と強く思いました。幾つになっても刺激しあえる環境に身を置けることは、ありがたいことです。目標に向かって前進している方々と同じ時間を共有できた喜びと、私の大好きなAPと一緒に伝えることが出来る仲間（というより家族）が増えた嬉しさを感じ、初めての養成講座は幸せな気持ちでいっぱい経験でした。

受講生からは「APを受けて、養成講座を受けて良かった」「ありがとうございました」と嬉しい言葉をたくさんもらいましたが、私の方が受講生の皆さんから得るものが多くて、どれだけ感謝の言葉を並べても足りないくらいの経験をさせてもらえたと思っています。講座を提供しているようで、逆に学びを深めさせてもらっているし、勇気づけをしているようで、逆にたくさん勇気づけしてもらっているのが私たちリーダー・トレーナーではないかと思っています。

「この私がAP講座を提供するなんて、おこがましい。APにふれ続けていただけ」とリーダー養成講座を受けていたときに言っていた昔の私に、今の様子を伝えたらビックリするだろうなあ〜。もっと昔のガミガミ怒りながら子育てしていた頃の私に伝えたら「私がトレーナー？ありえない！何言ってるの？」と全く信じないだろうなあ〜。APに出会ったことで、私の人生は大きく変わったよな〜と、時々考えることがあるのですが、我ながら良い選択をして生きてきたな♪と自画自賛しています。

テキストの中で『私たちが何をもっているかが重要なのではなく、私たちが持っているもので何をやるかが重要である』というアドラーの言葉は大好きな一節です。今まで色々な言い訳をしてきたけど、自分次第で『なりたい自分』になれるんだ♪と前向きな気持ちになれ、ワクワクしてくるからです。

共に学び高め合える仲間恵まれ、受講してくださる方々や家族のおかげで、大好きなAPと関わり続けることができました。その中で、多くの励ましや支えをもらい、勇気づけられてきたことで、『なりたい自分』になろう♪と思える私になれたのだと思っています。良い人間関係があると、本当に力がわいてくると実感しているので、APトレーナーとして、ひとりでも多くの方にAPを届け続けたいと思っています。





リーダー誕生

おめでとうございます！

(敬称略)

福岡市 池田佐奈江 山口雅代
朝長真由美 萬納寺裕子
野口友紀
東京都 堀内千恵子



最近の子どもの状況について、家族教育について ～～最終レポートより～～

東京都 堀内千恵子

最近の子どもの状況は私が子どもだった40年前と大きく変わった。第一に母親が働いている子どもが多くなった。ゆったりとした時間の中で母親と一緒に遊んだり、ふれ合って過ごす子どもが減り、母親の手料理を食べる子どもも減った。母親自身がいつも忙しく余裕がないため、子どもは甘えたくても甘えられず、フラストレーションが溜まっている。また、ほんの些細なことでも母親に叱られ、イライラする子どもが多くなった。第二に、最近の子どもはごく小さい頃からテレビやパソコン、スマートフォンなどで画像を見たりゲームをする時間が増えた。オモチャもゲーム機能がついているものが増え、一人で小さな画面に長時間没頭し、無機質な機械相手にコミュニケーションを取ることが多くなった。核家族が増え、親以外に育児を担ってくれる助け手がないため、子どもをテレビやパソコンの前に座らせたりスマートフォンを見せてやり過ごす親が増えた。第三に早期教育が過熱になり、幼少の頃から多数の習い事をしている子どもが増えた。子どもたちは学校の宿題、公文や塾の宿題、習い事に追われ自由に遊んだり、考えたり、思いを巡らす時間が減った。

私は最近の家庭教育は二極化が進んでいると思う。経済的に余裕がある家庭では早くから公文や塾に通い、母親が傍について家庭学習も積み、一学年、二学年先の勉強をしている。一方、経済的に余裕のない家庭は母親も就労している場合が多く、小学校の宿題すらゆっくりみることができず、子どもは学校の授業にもついていけないケースが多い。

教員は人件費削減で人数が足りず、学校からは家庭学習の重要性を訴える手紙が配布されるが、家庭での教育と努力だけに任せていても、子どもの学力はますます開きが出てくると思う。

私が親になって思ったことは親教育を受けてこなかったということである。私は妊娠して出産して突然親になった。子どもをどう育てればよいか教わったことはなく、どのような信念や考えで子どもを育てるのか、夫と話し合ったこともなかった。いきなり母親になり、いきなり育児が始まった。子どもが生まれて間もない頃はよかったが、2歳、3歳と大きくなるにつれて、ただおむつを替え、お風呂に入れ、食事を与えるだけではすまない育児が始まった。一つ一つのしつけ、声のかけ方、励まし方、なぐさめ方までを家庭教育というならば、最近の家庭教育は母親個人の育ちや経験や価値観に任された、極めて多種多様で何でもありの無法地帯状態だと思う。つまり子どもがどのような家庭教育を受けるかは、ほとんど母親次第である。母親がどのような人物でどのような人生経験をしてきたか。それによって子どもへのたった一言の声かけすら変わってくる。子どもが言うことを聞かないとき、子どもらしい自然な姿だと感じるのか、悪いことだと怒って怒鳴りつけるかは母親次第なのである。

このように現在の育児は母親次第の無法地帯状態であるため、自分と異なる育児に出会うと戸惑い悩む親が多くなった。何が正しくて、何が正しくないのかわからないのである。自分の育児が正しくないなら、正しい育児を知りたいと思う親も増えた。

私は女性が母親になろうと思ったら、子どもを産む前にAPを学ぶとよいと思う。子どもと親は平等であること。子どもに敬意をもって接すること。自分の信念や考えを変えるだけで怒りも怒りでなくなることを母親になる前に学ぶとよい。母親も子どもも余裕がなくなっている現在、母親は、これでもかというほど精一杯働き、子どもを育て、家事をして介護もしている。心身ともに疲れ、小さな事にイライラして子どもや家族に当たる母親は今後ますます増えるだろう。私はそのような母親たちにぜひAPを学んでもらい、声のかけ方、接し方を少し変えるだけで驚くほどより良い人間関係を育むことができること、そしてそれによって自分も救われ、幸せになれることを知ってほしいと思う。

最近の子ども の 状況について、家族教育について
～～最終レポートより～～

福岡市 萬納寺 裕子

現在、家庭を取り巻く環境は決して明るいものではありません。親の収入の差により生まれる子どもの教育格差、虐待や引きこもり、介護、離婚による母子・父子家庭の増加など、難問が山積みしています。

ある調査によると、早く大人になりたくないという小中学生が増えているそうです。その理由は半数が「子どもでいる方が楽だから」というものだそうです。勉強だけではなく、手伝いで忙しかった昔と比べて、現在は勉強さえしていれば親は文句を言わず生活に困ることはありません。引き換え大人は残業やリストラなどで苦勞するイメージが定着している、とのこと。子どもに将来の明るい展望を持たせられていないという事実は、非常に残念な結果です。

また「能力の長けた者が高い評価を受ける」という社会の価値観が家庭にまで強く浸透してきており、子どもにとって家庭までもが寛げる場所にならなくなってきているように感じます。たしかに先述したように現在社会においては家庭の問題は山積み、各家庭においても夜遅く会社から帰ってくる父親に、子どもの成績や家庭の収入で悩み不満を持つ母親・・・と現実には輝かしいものばかりではないかもしれませんが、子どもには明るい将来を描き、夢を持ち「早く大人になりたい」と期待に胸を膨らませてほしいと思います。また子どもがそう思えるようサポートしていくことは未来を背負う子どもたちを育てる我々の使命だとも思います。さらに「利益や効率を追求する社会の価値観と家庭の価値観は別であるべき」ということが再度、広く認知されるべきだと思います。「子どもはそこにいてくれるだけでしあわせだ」と無条件に子どもを認め、受け入れ、大切にすることで、子どもにとって家庭は寛げる場所となります。その中で、子どものセルフエスティームが育ち、安定した心身が育つのです。



福岡市 山口 雅代

子育て真っ最中の時は、仕事をし、子どもの予定に合わせて食事の支度、PTAや子ども会、そして部活の役員も回ってきたり、すべて子どものために頑張っているのに、忙しすぎて子どもには「早くして」「きちんとして」「どうしてお母さんのいう通りにしないの」と怒ってばかりでした。(できるだけ子どもには悲しい思いをさせずに、幸せになってほしいと、成功への近道のルールを親の言うとおりに頑張れば幸せになれるのにと・・・)

でも、子育てが終わって思うことは、反抗してくれてありがとうという気持ちでいっぱいです。

自分で考えて、自分で決めて、時には失敗して苦しんで、悲しんで・・・それでも息子は「あの時、乗り越えることができたから、今の辛さくらい大丈夫!」とってくれます。

子育てで悩むたびにAP講座を受け、「大丈夫よ。それでいいのよ」と私が勇気づけられたように、今度は私が子育て真っ只中のママに少しでもAPで学んだことを伝えていきたいと思います。他人と比べて悩んだりしないで、自分のことも、子どものこともありのままを愛せることで、他の人も認めることができる勇気を持った子育てができるように、お手伝いしていきたいです。

秋の夜長を楽しむお薦めの本!!

- ★ 「子ども孫子の兵法」
齊藤孝監修 日本図書センター
- ★ 「あなたがまもるあなたのこころ
あなたのからだ」
森田ゆり著 平野恵理子絵
童話館出版
- ★ 脳疲労が消える「最高の休息法」
久賀谷亮著 ダイヤモンド社
- ★ 「遠野物語」
柳田国男 河出書房新社

2017年リーダー研修会 (in福岡) の報告

10月24日、アクロス福岡にてリーダー研修会を開きました。今回は7月の関東での研修会でとても好評だったmanaレインボー主宰の松尾直子さんに再び「インナーチャイルド」について講演をお願いしました。参加者は20名ほどでしたが、リーダー養成講座を受講中の方もおられ、皆さん松尾さんのお話に引き込まれるように熱心に聞いて、ワークに取り組んでおられました。10時から14時までという短い時間でしたが、皆さまありがとうございました。そして、お疲れ様でした！



参加者の感想 (アンケートからの抜粋)

- ・「自分が押し込めている怖れや隠れた望みに気づくようにわが子を通してプレゼントされている・・・」という言葉が印象に残りました。
- ・頭ではわかったつもりでも、できないことや心に閉じ込めたインナーチャイルドの存在を意識することができました。
- ・インナーチャイルドについての話は、ワークを通して自分の中のインナーチャイルドに心を寄せることができ、自分の痛みについて目を向けることができました。うすうすわかっていたつもりでも、具体的にどうしてほしかったのか、何とってほしかったのか・・・を言葉にして伝えてみたときの体感想像を超えるものでした。そして世代を超えて引き継がれる痛みをそのまま連鎖させるのではなく、気づいたところから連鎖を断ち切っていけばよいことを知ることができました。だからといって、単に自分のして欲しかったことを子どもに与えるのでは、子どもを通して自分を満たすだけであって子どもにとって適切とは限らない、ということも大きな気づきでした。
- ・インナーチャイルドとは「自分らしさの原点であること、心の傷の下にはその人らしさ、その人なりの力、実現する力がある」ということを学び、とても希望が湧く言葉だと思いました。また、自分らしさは決して枯渇しないということ、だからこそ「自分らしく生きて行くということが、生きやすい」ということがわかる表現だと、腑に落ちました。
- ・子育ては自分の愛し方を教えてあげることであり、個性の受け取り方や育み方を子どもを通して気づかせてもらえるという言葉が印象的でした。また「APリーダーたちは女神」といわれたのが勇気づけられました。
- ・若いリーダーさんたちの声を聞いてAPを伝えていく大切さを改めて実感しました。リーダー交流ができ、親しみを感じました。
- ・とても柔らかい雰囲気の中で、楽しく学びを得ることができました。
- ・学び続けて行くことの大切さや、自分自身と向き合い、たえず前向きに成長していくことの大切さを確認しました。
- ・新しいリーダーさんも多くて、初心を学ばせていただきました。
- ・リーダーの先輩方の笑顔、柔らかな話し方や学びへの真摯さに触れて、勇気をいただきました。

「APを受講して・・・」

太宰府市 小寺 ゆかり

AP講座を初めて受講してから二年半近く経ちます。今は月に一回フォローアップ講座でお世話になっています。

私がAPを受講したいと思ったのは、当時小学校低学年の次男の接し方に悩んでいたからです。小さい頃から大きな問題もなくいわゆる良い子の長男と比べて、次男は育てにくい子だなと感じていました。次男は落ち着きがなく、我が強く、幼児期は友達と喧嘩して暴力をふるったり色々問題を起こしていました。私に反抗的な次男にいつもイライラし怒ってばかりいたため、自己肯定感の低い子に育ってしまいました。このままでは子どもを駄目にしてしまうと感じていましたが、どう育てて良いかわからなくなり、自分の理想と現実との違いに悩んでいました。そんな時にAPを紹介されて受講するようになりました。

APではテキストやビデオで学習しましたが、内容を頭では理解できてるようで実際にはなかなか実行できませんでした。テキストを見て同じように子どもに接しようとしたのですが、上手くいかなかったり、その場になるとAPのことを忘れて子どもを怒ってしまい、自己嫌悪に落ちいるの繰り返しです。

講座では子どもとの間に起こった出来事を具体的に話し、先生や他の受講生の方々から色々なアドバイスを頂くことができます。実家も遠く離れていて、身近に子育ての悩みを相談できる相手のいない私にとって、本当に心の安らぎの場所となりました。

APを受講する前、私は「子どものため」を勘違いしていた独裁的な母親で、子どもの勇気を挫くようなことばかりしていました。そのことに気づかせてくれたAPに心から感謝しています。

先日、私が次男に「よしよし」とハグしようとしたら、次男は「僕のことすごく可愛いと思ってるのはお母さんだけだよ」と言いました。それを見ていた長男は「親バカだね～」と笑っていました。少なくとも子どもは私から愛されてるとは感じてくれているようです。しかし、まだまだAP的な子育てができていないと言え難く・・・ もう少しフォローアップで学ばせて頂きたいと思っています。これからもどうぞ宜しくお願い致します。

しゅんすけ日記 (しゅんすけ4歳)

お風呂屋さんへ行くのを楽しみにしていたのに、お父さんが風邪を引いてしまいました。「今日はおめん！お風呂屋さんに行けない。また来週にしよう」「イヤだ～ 行きたい～」泣き叫ぶしゅんすけ。「じゃあ、家のお風呂に入ってジュースを飲もう！」「いやだ～お風呂屋さんいく～」何を言ってもだめで、しゅんすけは泣きすぎて目が腫れています。「残念だったね。行きたかったよね。お父さんが元気になったらまた行こうよ」共感しつつ励ますが、なかなか納得できない様子。しばらくして、「飴食べる！食べたらお家のお風呂に入る」と言いました。悲しみを飴で乗り越えたしゅんすけでした。

妹のきょうかちゃん



イヤだ～イヤだ！
おふろやさんいく～



こまったわね～



APジャパンからのお願い

☆ 講座が始まりましたらすぐ受講生の名簿(名前、住所、電話番号)をお送り下さい。その際には郵便番号とお名前にふりがなをつけてお送り下さい。また転居された場合はご連絡下さい。

☆ 年会費はリーダー資格登録年会費(6,000円) トレーナー登録年会費(10,000円) となっております。登録年会費はかならず年内に納入をお願い致します。

☆リーダーの方で退会される場合にはご連絡下さい。

☆ APジャパンの住所内(本部)には誰も常駐しておりません。テキストの注文や受講生名簿の送付などのAPジャパンへのご連絡は、できるだけ携帯電話あるいはメールでお願いします。

☆ テキスト(4,000円) キット(50,000円)などの教材は講座を受講しなくても電話注文で、購入することができます。

APジャパン本部(代表 野中 利子)

☎: 携帯電話: 090-8391-3196

携帯メール toshiko-mama-718@ezweb.ne.jp

PCメール apjapan@activeparenting.or.jp

💖あとがき💖

皆さんいかがお過ごしでしょうか。今年もあと2ヶ月余りになりましたね。時が経つのが、年々早くなっているような気がするのは、私だけかしら・・・。

さて、来年は初代APジャパンのジューン・シートさんからAPジャパンを引き継いで20年になります。20周年キャンペーンとして予めより念願の「ワンコイン講座」を10月30日から福岡市男女共同参画センター(アミカス)にて始めました。主催は「APを学ぶ仲間の会(代表野中利子)」です。冒頭にも書いていますが「ワンコイン講座」は新しくリーダーになったばかりのリーダーが、初めての講座にチャレンジするリーダーのトレーニング講座です。この講座でリーダーの経験を積み、自信をもって講座を開くことができるようにサポートしていきたいと思います。新しいリーダーさんの勇氣あるチャレンジを楽しみにしています!

今年度リンクはこれが最後になります。リーダー・トレーナーの皆さんには心から感謝申し上げます。ありがとうございました。



APP社のホームページ

<http://www.activeparenting.com>

APジャパンのホームページ

<http://www.activeparenting.or.jp>

「リンク」はAPジャパンの印刷物です。

© 2017 発行者 APジャパン
代表 野中 利子

〒814-0111

福岡市城南区茶山2-2-5(本部)

電話: 090-8391-3196

FAX: 092-851-8606

apjapan@activeparenting.or.jp

季刊誌「リンク」は年4回発行しています。
ホームページで公開していますので、どうぞご自由にご覧下さい。